

2019年12月の行事予定表

1	日	礼拝式、教会役員会	16	月	
2	月		17	火	
3	火	パイプ・オルガン調律	18	水	聖書の学びと祈り会
4	水	聖書の学びと祈り会	19	木	祈祷会
5	木	祈祷会	20	金	朝の祈り会
6	金	朝の祈り会	21	土	
7	土	(理科大学クリスタル・コール演奏会)	22	日	クリスマス礼拝式。クリスマス祝会
8	日	礼拝式、奉仕の日(教会大掃除)	23	月	
9	月		24	火	クリスマスイブ、キャンドルサービス
10	火		25	水	教団・プロジェクト委員会
11	水	聖書の学びと祈り会	26	木	聖書の学びと祈り会
12	木	祈祷会	27	金	朝の祈り会
13	金	朝の祈り会	28	土	
14	土		29	日	礼拝式
15	日	礼拝式、各会の例会日です。	30	月	
			31	火	大晦日祈祷会(午後7時)

教会月報

2019年12月

No.344

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

クリスマスを祝う

「恐れるな。わたしは民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそメシアである。」

ルカ福音書2:10-11

メリークリスマス！！

今年も早、年の瀬を迎えました。キリスト者にとってはあわただしい中であっても、クリスマスの恵みは、各自において最高の位置を占めています。なぜならば、わたしたちキリスト者において絶対外すことのできない出来事であるからです。神の御子イエス・キリスト様が世に生まれ、わたしと信仰において関係を持って下さったからであります。

さて、毎年世界中でクリスマスが祝われます。キリスト教国以外でも盛んに祝われます。なぜでしょうか？

それは、救世主(メシア=救い主)として神の子が生まれたことによります。そして、その生まれた幼児が、過去も現在も未来においても唯一の希望となったことが聖書に記されています。

クリスマス・ツリーは何を示しているのかご存じでしょうか？

いちばん上に輝く星は、わたしたちの希望を現し、神の子が人間の姿(受肉=インカーネーション)を取ってきて下さり、あなたのためにも神の子が人間になって下さった事を示すためでありました。父なる神は、独り子であるイエス様を人間の姿を取らせて世に現れ、人間の罪(自己中心による神不在と人間の犯す罪))を贖い赦すためでありました。

クリスマスは、美味しいケーキを食べたり、みんなが喜ぶプレゼントをすることもうれしいものですが、それよりも神様が最高のプレゼントである御子イエス様を下された事を喜ぶ日なのです。あなたも今年のクリスマスを教会で共に祝いましょう！！

牧師 永松 清

12月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます

編集後記

◇ 朝夕の風で晩秋から初冬へと実感させられます。今月号は 11 月 3 日の永眠者記念礼拝と長寿のお祝い会・墓前礼拝報告。そしてオルガンコンサートのレポートと青木恵美子師のお証しを掲載しました。感謝な 11 月でした。

◇ さて、いよいよアドベント！主イエスの御降誕を待ち望みつつ、主の御心に適う一年の締めくくりになりますよう祈ります。

祝された2019年11月3日

～永眠者記念礼拝・長寿を祝う会・墓前礼拝レポート～

爽やかな秋晴れの11月3日の主日礼拝は永眠者記念礼拝として行われました。会堂には、今年も先に召された先輩方のお写真が飾られ、懐かしい顔を拝見して気持ちもほっこり。

この日の永松師のメッセージは《栄光ある姿に変える神》と題してフィリピ3：12-21から語られました。師は『信仰者の目指すべき目標は何か？パウロのように来るべき主の再臨の時にその救いに与りたいという信仰を持つことが大切であり、【我らの国籍は天にあり】の通りに御国へと導かれる恵みを待ち望みましょう』と説かれました。礼拝の最後に、永松師よりお写真お一人ずつ紹介されて懐かしい思い出が蘇りました。



(上、当日参加された4名の姉妹方)

午後からは『長寿を祝う会』が昼食のお弁当を頂きながら開催。当日は今年から新たに仲間入りされたR.K.姉を含め4名の方々が参加して行われました。青年会長、壮年会長、女性会長と責任役員のお二人がお祝いの言葉を述べられ、記念品の『日めくり御言葉カレンダー』が4名の方に贈られました。



その後、教会第一墓地において墓前礼拝が行われ、今回は10名の方の参加で賑やかな墓前礼拝となりました。用意されたお花を供え、参加者がそれぞれ故人の思い出を語りつつ、天の御国での再会を願って祈りを捧げました。

朝から多くの方が集われた一日となりましたが、参加された方々のそれぞれの思いが感じられる11月3日でした。来年のこの日まで感謝を持って一年過ごしていきたいと思えるひとときとなりました。



(上、右 共に当日の野外礼拝にて)



証し 青木 恵美子 師



どなたにも、とりわけ心に響く賛美歌がお有りかと思えます。私は歌うことが苦手。その分、賛美歌の歌詞・言葉が心に響きます。特に忘れることの出来ない二、三の曲について恵みを証ししたく存じます。

キリスト教とは全く無縁な家庭と環境で育ちました。42年前、目黒教会の特別伝道集会で初めてナザレン教会に導かれました。或る夜の伝道集会で歌われた聖歌が398番でした。(現新聖歌111番)
『生きるかもしなしと一人定めたりしものを、死をも賭して救いませる深きイエスの愛よ。十字架、十字架、そこに君はつきて死に給えり。十字架、十字架、そこに我の罪も共に死せり。』
当時私は生きる意味が無い、と苦しんでおりました。イエス様の負われた十字架の意味と復活の恵み、イエス様のご愛が心にしみ通り、先ず忘れることの出来ない曲となりました。

もう一曲、賛美歌90番。『ここも神のみくになれば、あめつち御歌を歌いかわし、岩に樹々に空に海に、たえなる御業ぞ あらわれたる』

1995年1月17日未明。阪神淡路大震災。たいへんな惨事となりました。間もなく25年。他教団ですが、長田区にあったある教会は会堂が一瞬にして倒壊しました。震災後、初めての聖日、今にも雨が落ちてきそうな戸外で礼拝が守られました。選ばれた賛美歌の一つが90番でした。その時、主が牧師に示された福音は、兄弟姉妹方が何を聞いても聞きたかった「ここも間違いなく神のみくに」でした。震災から一年半後、牧師は40代なかば病で天に召されました。

人生には様々なことがおきます。苦しみ、悲しみの多くは、突然私たちに襲います。ひどく誤解されることもあります。激しい誹謗中傷に晒されることもあります。重い病、不治の病気におかされることもあります。しかし、主イエス様の御手の及ばぬ世界は無いことを確信します時、新たな力、立ち上がり歩みを進める力が与えられます。この主の恵みを多くの皆様と共に分かち合いたく願っております。



おやこで聴くオルガンコンサート 2019

11月2日(土)午後2時より、パイプオルガン、大正時代の足踏みオルガン、そして民族打楽器を楽しむコンサートが開催されました。ベンチを反転させた教会堂に、昨年も参加して下さった親子含めて50名弱の方々(教会員含め)をお迎えしました。



米山麻美先生のパイプオルガン(トッカータとフーガほか)に続き、会堂フロアで井上さより先生の民族打楽器の効果での米山先生の絵本読み聞かせ2話!大人も幼児もシーンと引きこまれ、時には持参の鳴り物を打ち鳴らして大いに盛り上がり楽しみました。チラシや山陽新聞のイベント告知などによって来てくださった方々が、アンケートでも「良かった」との反応をくださり、教会のパイプオルガン維持のための献金にも応じてくださって感謝でした。地域とのつながりを肌で感じたコンサートでした。

